

様式第6号(第17条)

会 議 録

会議の名称		令和5年度 第2回春日部市市民活動センター運営協議会	
開催日時		令和5年11月14日(火)	開 会 午後 2時00分
			閉 会 午後 3時30分
開催場所		春日部市市民活動センター6階 会議室5. 6	
議長(会長等)氏名		石塚 勝美	
出席者	委員氏名	(出席人数: 6人)	
		石塚 勝美、芦澤 弘子、並木 素生 新井 恵美、関根 隆、藤内 和博	
	説明者 その他	(出席人数: 2人)	
市民活動センター指定管理者 株式会社 コンベンションリンクージ 市民活動センター所長 小笠原 正人、アドバイザー 生越 康治			
事務局	事務局	(出席人数: 5人)	
		市民生活部長 飯口 信彦、市民参加推進課課長 中村 匡則 市民参加推進課主幹 石川 貴英、市民参加推進課主査 山本 顕介 市民参加推進課主任 河津 真奈美	
次第及び公開、一部公開、非公開の区分		1. 開 会 2. 報 告 (1) 令和4年度 市民活動センター第三者評価について 3. 議 事 (1) 令和5年度 上半期市民活動センター事業について (2) ぽぽらフェスティバルの準備状況について 4 その他 (1) 令和5年度 実施事業詳細の見直しについて 5. 閉 会 ※(すべて公開)	
一部公開・非公開の場合はその理由		<input type="checkbox"/> 要綱第3条第1号該当: <input type="checkbox"/> 要綱第3条第2号該当: <input type="checkbox"/> 要綱第3条第3号該当: <input type="checkbox"/> 要綱第3条第4号該当:	
配布資料		報告 令和4年度 市民活動センター第三者評価について 資料1 令和5年度 事業スケジュール概要 資料2 令和5年度 実施事業一覧(10月末まで) 資料3 令和5年度 実施状況中間報告 資料4 令和5年度 第2回 利用者会議 開催報告 資料5 令和5年度 第1回 施設利用者アンケート集計レポート	

	資料6 ぽぽらフェスティバル2023について 資料7 ぽぽらフェスティバル2023プログラム表 資料8 令和5年度 実施事業詳細（修正案）
会議録の作製方法	<input type="checkbox"/> 録音テープ等を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音テープ等を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録署名の指定	
発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
議 長	【1. 開会】
事務局	【2. 報告】 「(1) 令和4年度 市民活動センター第三者評価について」説明願う。
議 長	—説明—
委 員	ただいまの説明につきまして質問、意見のある方は挙手を。
議 長	第三者評価についてはよくわかった。できれば次回からは、数値化したものを評価してほしい。それにより足りないと思われるものを、今後センターが発信していくことにつながると考える。市民が何を求めているのか、要望を吸い上げてまちづくりに生かすために数値化することが求められる。
委 員	第三者評価では、何かしらのフィードバックとして、目に見える結果が求められている。
議 長	自身の印象では、春日部市はこのところ活気がないと思う。今後の担い手である子ども達やその親世代の声を聞くなど、人口構成を踏まえたまちづくりを行う上で数値化が必要である。
議 長	目標を数値化することについて、センターや事務局はどのように考えているか。
説明者（センター）	数値目標が明確になることはベストであると考えているが、例えば、利用者会議の回数など、市と締結している協定書に記載された回数をあえて目標数値として記載することに意味があるのか。また、市民活動講座の参加人数を目標数値にするのであれば、人気が出

<p>説明者（事務局）</p>	<p>そうなスマホ講座などが候補に挙げられるが、それが市民活動講座として有益であるのか、検討が必要である。</p> <p>市民参加推進課としては、令和5年4月よりスタートした春日部市総合振興計画後期基本計画の中に市民参加や協働に関する施策を掲載している。市民活動を活性化するために、市民活動センターと協議しながら施策を進めていきたい。</p> <p>目標の数値化については、センターの意見と同様に、数値化が見合うものとそうでないものがあると考えている。そのため、どの事業が数値化に適しているのか等を含め、これから皆様の意見をいただきながら、検討していきたいと考える。</p>
<p>議長</p>	<p>数値化することが適切でない事業については、具体的な目標を設定することがよいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>検証して、前に進んでいけるものであればよいと思う。目標を設定した上で進んでいかないと物事は前に進んでいかないと考える。</p>
<p>委員</p>	<p>単年度の期間では、何が評価できて何が課題であるかを考えるのは難しい。経年でどう変化してきたかを見るのであれば、努力してきた部分や手がつけられていないところなどが見えてくると考える。第三者評価のしくみとしては単年度評価であると思うが、経年で見るとまた違った見え方がある。</p> <p>数値化は市民活動の現場では難しいが、一人でも多くの人に関わるということは大事であると思う。また、社会課題として深刻であるが活動している人が少ないという課題に対しても大事に注力する柔軟性も必要である。その場合の切り分けや判断についてもう少し見えてくるとよいと考える。</p>
<p>議長</p>	<p>上手くいっているところだけでなく、上手くいっていないところも正直に伝えてもらえれば、委員から様々な意見をもらえると思う。強弱をつけるのは重要である。</p>
<p>委員</p>	<p>市民間でも情報量に差がある。それにより、活動に対する感覚が変わってくる。メールマガジンなど、市民に届く情報をもっと出していった方がよい。見せ方ひとつで印象も変わってくる。</p>
<p>議長</p>	<p>個人によって実感する差があるので、色々な方に情報を伝えるしかない。情報量が多い方がよい。</p>

委員	<p>自身の団体はセンター開所当初から利用しており、センターから多くの情報をもらっていると感じてる。情報は量より質であり、団体に届くお声かけの仕方が大事だと思う。センターで会った団体同士が会って、一緒に活動することで活動の幅が広がっていくことを願っている。</p> <p>自身の団体では、先日も大きなイベントを開催した。参加した子ども達が、あのイベントは楽しかった、自分が育ったまちが好きと思ってくれるように、多くの団体、個人のボランティアの方々の協力のもと実施している。市民活動やまちづくりはなかなか成果が見えないが、子ども達の楽しかった思い出をつくるため、ぶれずに継続していけるように今後もセンターや市役所にはサポートをしてもらいたい。</p>
議長	<p>子どもと大人では感じ方も異なってくる。各年齢層によってとらえ方は違うので、アプローチの仕方が変わるということにつながる。</p>
委員	<p>このイベントは、まちなかを一周するウォークラリー形式であり、多くのボランティアがいないと成り立たない。ボランティア募集のためにアンケートをとったところ、小学5年生の子もいた。その子が大きくなった時にもつながっていくイベントになるとよいと思う。また、普段市民活動をしていない人の最初の経験になることも期待している。</p>
議長	<p>【3. 議事】 「(1) 令和5年度 上半期市民活動センター事業」について説明願う。</p>
説明者	<p>—説明—</p>
議長	<p>ただいまの説明につきまして質問、意見のある方は挙手を。</p>
議長	<p>先ほど数値目標について話があったが、相対的に見て、登録団体数などは近隣市町村と比べると違いはあるのか。</p>
説明者	<p>登録団体数のみで見ると、人口比では多い印象はある。しかし、登録している団体のうち、どのくらいの数が活動をしているのかは不明であり、登録していない団体でも活動をしているところはあるため、一概には言えない。</p>

議長	利用者アンケートを年2回行う必要はあるのか。2回目は質問を変えるのはいかがか。
委員	市民活動センターの設置目的の一つであるまちづくりに寄与する情報をアンケートから得るのはいかがか。市の施策にとってプラスになるため、意義があると考え。例えば、市内の学校に依頼することで、子ども達やその保護者から情報を収集することができる。
議長	例えば、一番近くの小学校に依頼することも一つの方法である。母数を増やす努力は大切であると考え。
委員	アンケートの実施方法や内容については、3年後にこのようなまちづくりをしたいので、このような情報が欲しいなど市と協議しながら進めてほしい。
委員	<p>情報発信の方法について、SNSやホームページ等を使用しているところがあるが、学生が市民活動に参加するためには、その場で情報が得られることが鍵になる。交流ミーティングスペースで勉強している学生にチラシを渡して声かけをするとよいと思う。その学生がいつか市民活動をやってみたいと思う気持ちにつながると考える。SNSやホームページによらない方法の一つとして有効である。</p> <p>また、モヤモヤカフェについて、ゲストのお友達を紹介してもらいながら開催しているが、つながりの中で続けていくと内輪の感じが出てくるので、センターからフィールドリサーチで出会った団体に対して、モヤモヤカフェでも話してもらおうよう働きかけを行うことは違う風を入れる意味でもよいと思う。</p> <p>アンケートは多くの情報が集まる機会なので、どんな社会課題がありますか、春日部市の課題は何がありますかなど、利用している人や市民の関心を確認する機会として使用するのもよいと思う。</p>
議長	様々な情報を得るために、新しい方に声をかけていくことを検討してもらいたい。
説明者	アドバイスいただいた内容を検討して参りたい。
議長	「(2) ぽぽらフェスティバルの準備状況について」市民活動センターより説明願う。

説明者	—説明—
議長	質問、意見がある方は挙手を。
委員	なし
議長	【4. その他】 「(1) 令和5年度 実施事業の見直しについて」説明願う。
説明者	—説明—
議長	ただいまの説明につきまして質問、意見のある方は挙手を。
委員	具体的な目標数値は今日報告できるのか。
説明者	報告できそうな部分もあるが、数値化することがよいのか不明な部分もある。 登録団体数で言えば、10月末現在で463団体が登録されているが、いくつを目標とするのか。未利用団体とは何をもって未利用とするのか。また、市民活動センターホームページの利用団体数を考えると、そもそもホームページ自体が、活用する団体にとっては有益であるが、活用しない団体にとっては有益ではなく、団体の意思によるところが大きいいため、目標値にはしづらいところがある。
議長	高齢者が多い団体だと、ホームページの利用方法がわからないところもあるのでは。
説明者	そのような場合はセンターでサポートを行っている。 その他の数値については、協定書に記載されたとおり、協働を促す企画については年4回、市民団体交流会については年1回、共同企画会については協働を促す企画と捉えれば年4回開催、フィールドリサーチについてはセンターとして3か月に1回は行いたいと考えており、年4回を目標として考えている。
委員	登録団体数に対して、フィールドリサーチの回数が少ないと思うが、いかがか。
説明者	多くの登録団体の話を聞くということであれば、窓口に来たと

委員	<p>ここで話を聞くことになり、目標の意味が分からなくなってしまう。</p> <p>登録団体数の数は、春日部市に興味がある人数と比例していると思う。登録団体数を増やすのはまちづくりの情報を共有できる人を増やすことにつながる。</p>
説明者	<p>フィールドリサーチは、登録団体に訪問するのではなく、登録はせずに活動をしている団体や、カフェを運営しているなど、自分達で活動の場所を持っている団体のところに行き、どのような利用者がいるのか、市民活動センターと今後どのようなことができるのか話を聞くことを目的にしている。</p>
委員	<p>まちづくりに対する課題につながるようなフィールドリサーチでないと、自己満足になってしまう。</p>
委員	<p>フィールドリサーチは、市民活動センターを利用していない団体に対しての広報を兼ねている。今後も聞き取った内容をセンターの運営にも反映していきたい。</p>
委員	<p>アンケートは単なる満足度のような情報を得るだけでなく、市民の声がまちづくりにつながるような質問形式がよいと考える。例えば、教育委員会にも協力してもらい、小学生に将来住みたいと考えるまちについて回答してもらいたいと思う。</p>
説明者	<p>団体登録については、市民活動センターとしても問題点として捉えている。登録したいという話があると、ほとんどの場合は会議室を使用したいという希望が多い。その都度、市民活動について説明を行い、内容次第では断ることもある。市民活動の促進、底上げが市民活動センターの役割であると認識しており、登録団体を増やすことが市民活動に直結するわけではないという印象がある。</p>
委員	<p>やみくもに増やすことが目的ではない。まちづくりに貢献する情報を集めるという点では、機能を発揮したほうがよい。</p>
説明者	<p>今後も担当課とも協議しながら進めていきたい。</p>
委員	<p>市民活動において、目標を数値化するのは難しいという印象がある。しかし、登録団体数については、具体的に戦略的な数値目</p>

	<p>標は出せるのではないかと思う。市民活動講座の広報活動を強化することや、登録団体へ直接PRすることについては、もう少し具体的な言語化が必要だと思うので、現場で検討してほしい。月間イベントについては、実施件数を増やしていくとあるが、今年度より少し背伸びする数値が持てるとよいと思う。</p> <p>モヤモヤカフェについても同様であり、数値目標を持つことで頑張れる部分もあると思う。</p> <p>委員 曖昧なものは曖昧なままで終わってしまう。少しでも良くするために目標設定を行ってほしい。</p> <p>議長 他にご意見が無いようですので、本日の議事を終了する。目標の数値化については、頑張れば届く数値から始めるのが重要であると感じた。また、届ける相手によってアプローチの仕方を変えてみる、見せ方ひとつで変わる、年齢別によってアプローチの仕方やアンケートの仕方を変えることなど、細分化される意見も出てきた。大事なところはぶれずに継続するとともに、さらに一歩踏み込むことの大切さについても意見が出てきたので、今後の運営の参考にしていただきたい。</p> <p>【5. 閉会】</p>
<p>議事の顛末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。</p> <p>令和5年11月30日</p> <p>署名者の職・氏名 会長 石塚 勝美</p>	